



アジア

AR249

2025年1月~4月号

リポート

ベトナム訪問の成果 ケビン・ジェスダサン

バングラデシュ会堂建設レポート① 吉田 隆

表紙写真(ベトナム): 吉田 隆

ベトナム訪問の成果

アジア・アウトリーチ・マレーシア ケビン・ジェスダサン

ベトナムのホーチンミン市を的確に描写している言葉といえば、エネルギーと発明と交通であろう。以前はサイゴンという名で知られていたこの町は、数えきれないほどの数のバイクで振動している。その数は一千万とも推測されており、一日を通して市内の道路を行き来している。混沌としてはいるものの、良い思い出がよみがえる。

そのような道路の多くの場所で、私と妻のリリアンは、横断できなかった。横断することは不可能でありバイクの間をすり抜けることは、死を覚悟したスタントのようなものであった。ホーチンミン市に到着したものの、町のようすは昔と同じままで何も変わっていなかった。

私たちの最初の任務は、モーセ牧師が統括する宣教地にある牧師たちへの奉仕だった。到着して間もなく、私たちは現地の牧師や教会リーダーたちとの昼食会を持った。前回の訪問時に会った方々もいたので、久しぶりに会って話ができて良かった。翌日、私とリリアンは町から2時間半の距離にあるメコンデルタを訪れた。二つの教会においてみことばを分かち合い、三つの家の教会で奉仕をした。その日150人に対する奉仕を行うことができた。主に對する彼らの熱烈な情熱を見て報われた。

次の日の旅は朝5時に始まった。ベトナムの中心に位置する高原にはダラットの村々があるのだが、そこへ行くのには自動車でも7時間かかった。私たちは貧しい世帯のために、米やそのほか生活に必要なものを購入し、二つの村と



40の家族に配った。受け取った人々は心から感謝し、ありがとうを言い続けていた。私たちは通訳者を介して彼らに福音を伝え、一緒に祈った。私たちは少数民族の暮らす別の村々を訪れたのだが、そこでは外部の牧師が公に語ることが許されていなかった。そこで私たちは神のことばを控えめに分かち合うため、通訳を介して部屋の隅で語ることにした。

次の日、私たちは別の二つの村を訪れ30の世帯を訪問した。光栄にも以前は共産党指導者であったが、現在はキリスト教徒に回心している老夫婦に出会えた。主を知ったきっかけや神の導きによって、彼らが奇蹟的に教会を見つけたことを聞いた。それはとても力強いあかしであった。

ダラットではある特別な人を訪問した。その人は引退した牧師であり、その娘は現在カジャン刑務所に投獄されている。彼が娘を最後に見たのは11年前である。妻と娘のベルニカは、時々その娘を訪問して祈り励ましていた。そのお父さんがダラットに住んでいることを知ったので、ここを訪れた際には会いに行くことにしていた。そして、娘はもうすぐ刑務所から出られることを伝えることができた。ダラットからホーチンミン市に帰る旅はとても長く、疲れるものであったが、今回の旅には行くだけの価値があった。私たちは、ベトナムの人々に神様の愛を



表し、みことばを伝えられたことを神に感謝した。

その後私たちは、牧師や教会指導者たちを対象とした研修会を始めた。今回の参加者は50名で、いずれもジョン・ホア牧師の指導下にある宣教師たちであった。妻が持っていた研修資料を、参加者の文化や教会に合わせて文脈化できたゆえに感謝した。研修プログラムは対話式で実践的であったため、言葉の壁があっても理解しやすい内容となった。

二日目にはプロ・ライフのデヴィッド・ウォーター牧師がハノイから合流した。デヴィッド師は反墮胎や赤ちゃんの救出を含むご自身の働きの概観について分かち合ってくださいました。私たちは一日中参加者たちに講義し多くの祈りを共にささげた。公共交通機関を用いて34時間もかけて今回の研修に参加した人たちもいた。この人たちの主に対する献身を見てとても励まされた。私たちはまたアジア・アウトリーチの牧師たちの忠実な働きに感謝した。過去数年はズームを用いてオンラインで会っていたが、今回は体面できたことがとてもよかった。ベトナムにおける時間はあっという間に終わったが、とても祝福された旅であった。キリストにある兄弟姉妹とともに神様を礼拝できたことに感謝している。また長年の友や新しい友とともに主に仕えることができたことはとても大きな喜びだった。

「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」(ペテロの手紙第一4章10節)



AOジャパン

海外から来られた人に福音を伝える！

AOJ協議会 京都グローリーチャーチ 吉田義則



2019年に発生した新型コロナウイルス感染症も2023年5月に5類感染症と位置付けられ感染対策も個人の判断に委ねられるものとなりました。外出自粛は求められず、個人の判断が尊重されるようになりました。

教会もオンライン礼拝から集まって礼拝を捧げられるようになりました。集会、聖会なども徐々に開催されるようになりつつあります。

海外へも短期宣教に行ける程に世相が回復しました。私も2024年3月にはフランス、イスラエルへ行きました。5月には韓国にも出かけました。国内では8月に神奈川県へ行きました。

教会の礼拝にはHPを見たり、Google ココミを見て、スリランカ・パキスタン・インドネシアから8名の兄弟が来られています。人の移動はコロナ以前に戻りつつあります。

今こそ宣教のチャンスです。神のことばは「無から有」を生み出し、聖霊様は有機的にお働きになります。風のように、火のように、水のように働かれます。

目的は何でしょうか？ すべてのものが神に立ち返るように福音を述べ伝える事です。これから日本は海外へ、海外は日本へと人の流れは激しくなるでしょう！

直接、海外へ福音を伝える人もいるでしょう！ 海外から来られた人に福音を伝えることも重要です。今こそ、すべての造られた者に福音を宣べ伝えましょう！



バングラデシュ会堂建設レポート①

吉田 隆

アジア・アウトリーチ・ジャパンでは、しばらく前からバングラデシュの6つの村に会堂を建設しようというプロジェクトを進めています。しかし、海外送金のマネーロンダリングということが最近大きな問題となっており、海外送金が容易にできませんでした。加えて円安が進行しました。さらに昨年8月にバングラデシュでデモが起こり、15年間にわたり実権を持っていた首相がインドへ逃亡し、政府が崩壊。国内情勢が不安定になるなどの問題が起こりました。依然としてこれらの問題が解決したわけではありませんが、少しずつ皆様からご支援をいただいたお金がバングラデシュに届き、2024年11月から最初の会堂の工事を開始することができました。

煉瓦などの工事に必要な資材が購入され、会堂の建設の進行の様子が、写真と動画によって、バングラデシュから送られて来ています。2025年2月に完成の予定です。そして第二会堂の建設がその頃開始されることを願っています。滞りなく建設が進められるようにお祈りをいただきたいと思います。



チャレンジ!バングラデシュ会堂建設プロジェクト

バングラデシュに会堂を建設しよう

一つの会堂の建設費は300万円です。現地の教会の信徒は建設のために奉仕します。

教会・教団・個人でまとまったご献金(50万円以上の)をいただいた場合、会堂玄関に名前を刻んで現地の教会は名前を挙げてお祈りします。これは祈りによって神の国の相互関係を強めるプロジェクトです。

詳しい資料をご希望の方は、aojoffice@gmail.com まで、バングラデシュ会堂建設プロジェクトについてお問い合わせください。

編集後記

- 2025年の新しい年がスタートしました。新しい年に、全能の主なる神様が、日本にアジアに世界に大きな宣教の前進を与えてくださるよう願います。アジア・レポートをお読みくださり、お祈りくださり、ご献金によってお支えくださいますことを感謝いたします。
- 印刷費と郵便料金、送料が値上がりのため今まで年間4回発行しておりましたアジア・レポートの発行回数を、前々から年間3回に減らせていただくことに致しました。どうぞご理解くださいますようお願い致します。尚、アジア・レポートをEメール添付の

PDFで配信ご希望の方は、aojapan@zeus.eonet.ne.jp までお申し込みください。

- アジア・アウトリーチ・ジャパンのウェブサイトが新しくなりました。<https://aojapan.org>
- アジア・アウトリーチ・ジャパンでは、毎月アジアの異なる国の宣教情報を提供させていただき、1か月その国のためにお祈りいただいております。この祈祷課題をご希望の方は、aojapan@zeus.eonet.ne.jp までお申し込みください。

迫害されている
クリスチャンの
ために祈ろう!
hakugai.org